

## BCPがあるかないとでは緊急時に大きな差

地震や洪水、火事・・・といった緊急事態に遭遇した場合、「早く事業を復旧したい」、「従業員を解雇したくない」。事業継続計画(BCP)はそのための事前の対策です。

災害に遭った中小企業経営者の復旧に向けた行動は力強いです。

| 阪神・淡路大震災（1995年）における企業復旧の例  |
|--|
| 工場が損壊したケミカルシューズ会社。社長は震災当日、「春物に間に合うよう1か月で復旧する」と宣言。機械を新工場に運び出し、宣言を実現させた。 |
| 神戸市内の工務店。会社を集まった従業員は、「ガレキをどけてくれ」、「建物を応急修理してくれ」という住民や市役所の要望に応えた。        |
| 街全体が焼失した商店街。住民が仮設住宅から戻った5ヵ月後に再起し、その後、商売を拡大し、今では大きなスーパーマーケットになっている。     |

予めルールを決めて従業員に周知しておく。関係者と話をつけておき、いざというときに連携することで緊急時の事業継続に大きな差が出るのです。

### 〔製造業〕

|     | BCP導入なし企業  | BCP導入済み企業  |
|-----|--|--|
| 想定  | 金属プレスメーカー。平日早朝に大規模地震が突発発生  |  |
| 当日  | 工場では全てのプレス機が転倒<br>ほとんどの従業員の安否確認ができず<br>納品先連絡先不明、判明後も電話不通                 | <b>アンカー固定済み</b> 、プレス機転倒せず<br>伝言ダイヤル171で <b>安否確認</b><br>最寄りの営業所まで <b>事情説明</b> に行く                                 |
| 数日間 | 多くの従業員が1か月間、出社せず<br>原材料の仕入元工場が全壊<br>1週間後、納品先の大企業から発注を<br>他会社に切り替えたとの連絡あり | 従業員、3日間地域活動後、 <b>交代制</b><br>原材料は当面、他企業から <b>代替調達</b><br>3日後、1か月で全面復旧可能と <b>報告</b><br>この間、遠方の協力会社で <b>代替生産</b>    |
| 数ヶ月 | 3か月後、設備復旧するも、受注戻らず<br>会社規模縮小、従業員7割解雇                                     | 手持ち資金から <b>月給や代金</b> を支払う<br>同業組合から、復旧要員の <b>応援</b> を得る<br>修理費用は公的 <b>融資制度</b> を利用<br>1か月後、全面復旧し、 <b>受注も元に戻る</b> |

〔建設業〕

|     | BCP 導入なし企業  | BCP 導入済み企業  |
|-----|---|---|
| 想定  | 小型ビル建設の工務店。平日早朝に大規模地震が発生。   |   |
| 当日  | 古い事務所は柱にひび。<br>社長の自宅半壊、避難所生活。<br>ほとんどの従業員、安否確認できず。                            | 社長の自宅、 <b>耐震補強済み</b> 。<br>伝言ダイヤル171で安否確認。<br>出社してきた従業員と会社近くで、 <b>けが<br/>人救出、テント設営</b> などに協力。              |
| 数日間 | 元請会社、孫請会社と連絡取れず。<br>大半の従業員、1か月間出社せず。<br>組合が市役所と災害時協力協定。応急<br>対策工事の要請あるが対応できず。 | 元請会社等連絡、工事現場確認を、従<br>業員がバイク等で手分けして行う。<br>プレハブ倉庫を <b>連絡拠点</b> に。<br>従業員、交代制で勤務。<br><b>応急対策工事</b> の要請に多数対応。 |
| 数ヶ月 | 復旧工事の引合いがあるが、手持現金<br>がないため、臨時作業員を集められず。<br>事業再建の目処立たず、当面の間、従<br>業員を解雇し、休業。    | 手持ち資金で、従業員と臨時作業員の<br>月給、資材の支払いを行う。<br><b>組合内</b> で応援要員、建設機械等の相互<br>融通を行う。<br>災害復旧工事等の業務を着実に受注。            |

〔小売業〕

|     | BCP 導入なし企業   | BCP 導入済み企業  |
|-----|--|---|
| 想定  | 小規模食料品スーパー（従業員3名+パート店員5名）。平日早朝、大規模地震。                    |   |
| 当日  | 建物は無事だが、棚が倒れ商品が散乱。<br>店主自宅半壊、家族と避難所生活。<br>従業員等、安否確認できず。  | 棚を <b>固定済み</b> 、商品の散乱は小規模。<br>店主の自宅は、 <b>耐震補強済み</b> で無事。<br>従業員等、スーパーに <b>安否の張り紙</b> 。  |
| 数日間 | 店内整理手付かず。停電で生鮮品腐敗。<br>従業員等とは、電話連絡のみ。                     | 翌日、 <b>ボランティア</b> の助け、店内整理。<br>在庫食料品を <b>避難所</b> に運び、無料提供。<br>1週間は物流ストップ。 <b>駐車場にテント</b><br>を張り、緊急物資の配給拠点に提供。<br>1週間後、電気が通じ自宅に戻った住民<br>を相手に <b>仮営業</b> を開始。 |
| 数ヶ月 | 1か月後、金融機関借入で自宅修理。<br>スーパー営業再開の目処が立たず。<br>従業員・パート店員、一時解雇。 | 手持ち資金で、従業員等の <b>月給支払い</b> 。<br>設備修理と商品仕入の資金借入れ。<br>1か月後、 <b>本格営業</b> 開始。  |